

京都商工会議所が主催し、京都の文化や歴史についての知識を問う京都・観光文化検定試験「京都検定」。1級では高度な知識のほか、「京都の魅力発信」ことができ、次世代に語り継ぐことができることが求められる。平成17年、初めて実施された1級の試験に合格し、合格者ら「京都通」

京人

きょうと

の人々と、観光ガイドや研究活動を行うNPO法人「京都観光文化を考える会・都草」を立ち上げた。

長く京都研究をライフワークとしているが、出身は札幌市。京都に関心を持ったきっかけは、おばあちゃん子だったという幼少期、京都に在住経験のある祖母が話していた

坂本孝志さん (68)

＝京都市南区

NPO法人「京都観光文化を考える会・都草」理事長



さかもと・たかし
昭和20年、札幌市生まれ。44年、京都に移住。定年退職後の平成19年、NPO法人「京都観光文化を考える会・都草」を立ち上げた。妻、息子、母と4人暮らし。

“京都好き”高じて活動

「京言葉」だった。自然と京都に関する本や観光案内を手に取るようになり、憧れを抱いた。知人も友人もいなかったが、24歳のとき、京都市山科区でアパートを借りて、念願だった京都暮らしを始めた。「誰かを頼って、とか進学を機に、というわけではなく、とにかく京都に住みたかった。

小学生のころからの憧れだったので」と笑う。京都で就職し、定年まで勤め上げた。「老後はボランティアをやりたい。知人も友人もいなかったが、24歳のとき、京都市山科区でアパートを借りて、念願だった京都暮らしを始めた。「誰かを頼って、とか進学を機に、というわけではなく、とにかく京都に住みたかった。

た。小学生のころからの憧れだったので」と笑う。京都で就職し、定年まで勤め上げた。「老後はボランティアをやりたい。知人も友人もいなかったが、24歳のとき、京都市山科区でアパートを借りて、念願だった京都暮らしを始めた。「誰かを頼って、とか進学を機に、というわけではなく、とにかく京都に住みたかった。

もっている。発足当時20人程度だったメンバーは、現在では350人を超える。最近新たに取り組んでいるのが、「京都御苑歴史散策マップ」の制作だ。京都御苑には観光客も数多く訪れているが、京都御所ばかりが注目され、御苑内の他の文化財には関心を持たない場合が多いという。「京都御苑は自然も歴史的な文化財もたくさんある。実際に歴史や文化を感じながら歩いてほしい」と力を込める。幼いころから、京都を愛し続ける人生だが、「京都の何が魅力なのかいまにわからない」という。

「スイーツ目当てで若い人も来るし、仕事で疲れて庭を眺めに来る人もいるのが京都。京都には人をひきつける“何か”があるんだと思う」。真剣に言葉を選んだあと、表情を緩めて続けた。「でも、理屈じゃなくて、好きにならざるを得ないところなんです、京都って」

(鈴木俊輔)